

農林水産省補助事業

動物用ワクチン利用の手引き
(豚用ワクチン編)
(第2版)
(第3 豚用ワクチン第3版)

令和7年3月

動物用ワクチン等保管協議会

目 次

第3	豚用ワクチン第3版について	i
第3	豚用ワクチン	1
1	ワクチン一覧の解説（利用にあたって）	1
2	ワクチン一覧	4
2-1	ウイルスワクチン	4
2-2	細菌等ワクチン	17
2-3	ウイルス・細菌の混合ワクチン	33
表	ワクチン一覧におけるワクチンと含有する ウイルス・細菌の名称一覧	37

第3 豚用ワクチン第3版について

豚用ワクチンを収載した「動物用ワクチン利用の手引き（豚用ワクチン編）」については、平成31年3月に発刊した「同（豚用ウイルスワクチン編）」に細菌等ワクチン（トキソイドを含む。）を追加収載し、「第1 豚の感染症とその予防」、「第2 生ワクチン及び不活化ワクチンの特徴等」及び「第3 豚用ワクチン（「1 ワクチン一覧の解説（利用にあたって）」、「2 ワクチン一覧」及び「表 ワクチン一覧におけるワクチンと含有するウイルス・細菌の名称一覧）」の構成で令和2年3月に発刊しました（収載製剤数48、品目数64）。

このうちの「第3 豚用ワクチン」の「2 ワクチン一覧」について、発刊後の新たに製造販売承認を取得した品目及び既収載品目での有用な情報の追加、製造販売中止による品目の削除及びこれらに伴う関連項目の修正等整備を行い、「第3 豚用ワクチン改訂版」（以下「改訂版」という。）として令和3年3月に発刊しました（収載製剤数48、品目数61）。

さらに、改訂版発刊後における市販豚用ワクチンについて直近の内容に整備するとともに使用上の注意等の情報公表方法を変更（添付文書から注意事項等情報（QRコード等の二次元コードの読取り）する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の改正（令和3年8月）により関係する記載の整備を行ったことから「第2版」として発刊しました（収載製剤数51、品目数64）。

その後、第2版の「第3 豚用ワクチン」については、「2 ワクチン一覧」において発刊後の新たに製造販売承認を取得した品目及び既収載品目での有用な情報の追加、製造販売中止による品目の削除、及びこれらに伴う関連項目の修正等整備を行い、「第3 豚用ワクチン改訂版」（収載製剤数51、品目数62）、さらに、「第3 豚用ワクチン第2版」（製剤数52、品目数64）として毎年、発刊してきました。

今般、この「第3 豚用ワクチン第2版」に同様に修正、整備等を行い、「第3 豚用ワクチン第3版」として発刊するものです（製剤数54、品目数65）。変更（修正）内容は別紙のとおりです。

引続き、本手引きを適切な飼養衛生管理のため地域、飼育場（農家）ごとの感染症対策における衛生管理プログラム作成の一助としてご活用願います。

最後に、本手引きは、令和6年度動物用ワクチン等保管事業（農林水産省補助事業）において作成されたものです。

QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

「第3 豚用ワクチン第3版」での変更（修正）内容等の概要について

- 1 「1 ワクチン一覧の解説（利用にあたって）」
 - 「2 ワクチン一覧」での品目追加等に伴う「目的・全体概要」における製剤数、品目数の変更、関連記載の整備

- 2 「2 ワクチン一覧」
 - (1) 新規収載品目等
「ポーシリスM Hyo IDAL」（p21）、「エンテリコリックス」（p31）の2品目
 - (2) 記載内容の変更品目（ ）は主たる内容及び該当項目)
 - ア 「フォステラゴールドPCV」（p14）及び「フォステラゴールドPCV MH」（p35）（妊娠中の繁殖用雌豚への使用を禁止する項目の削除（使用上の注意（抜粋）欄）
 - イ 「スイムジェン r ART₂」（p24）及び「スイムジェン r ART₂/ER」（p26）（子豚を注射対象から除く用法の変更（用法・用量、接種プログラム及び使用上の注意（抜粋）欄）
 - (3) 削除品目（ ）は理由)
「フォステラメタスティムPCV-MH」（製造中止）の1品目
 - (4) 品目の追加、削除に伴う「表 ワクチン一覧におけるワクチンと含有するウイルス・細菌の名称一覧」（p37）の整備

第3 豚用ワクチン

1 ワクチン一覧の解説（利用にあたって）

（1）目的・全体概要

本一覧は、獣医師等の家畜衛生関係者が畜産農家のワクチン使用に際して利用するために、個々のワクチンごとに製造販売承認申請書（以下「承認申請書」という。）、注意事項等情報（直接の容器、被包等に記載されたQRコード等の二次元コードにより公表される用法・用量その他使用及び取扱い上の必要な注意等）、その他の情報をもとに一覧表として整備したものである。掲載しているワクチンは、令和6年12月末時点で製造販売されている豚用のワクチン54製剤、65品目について、ウイルスワクチン、細菌等ワクチン及びウイルス・細菌の混合ワクチンに区分して、それぞれ有効成分数ごとに取りまとめた。なお、ワクチン65品目と含有するウイルス・細菌の名称との関係を表として取りまとめた。

（2）法的規制

掲載しているすべてのワクチンの医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下「法」という。）による取扱い等の規制は、それぞれ法第83条第1項の規定により読み替えた第44条第2項、第49条第1項及び第36条の8第1項に基づく「劇薬」、「要指示医薬品」及び「指定医薬品」である。

（3）一覧表解説

ア 製品名

承認申請書及び注意事項等情報（以下「承認申請書等」という。）における品名を記載した。

イ 製造販売業者名

略称で記載したが、正式名称は下表のとおりである。

略称	正式名称
イプラ	イプラ・ジャパン合同会社
MSDAH	MSD アニマルヘルス株式会社
科飼研	株式会社科学飼料研究所
KMB	KMバイオロジクス株式会社
セバ	セバ・ジャパン株式会社
ゾエティス	ゾエティス・ジャパン株式会社
日生研	日生研株式会社

京都微研	株式会社微生物化学研究所
ベーリンガー	ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社
松研	松研薬品工業株式会社
明治 AH	明治アニマルヘルス株式会社

ウ 有効成分名

承認申請書等における有効成分としてのウイルス、細菌名（血清型、抗原型等を含む。）とし、細菌が産生する毒素等が本質の場合には、名称及びその種類を記載した。遺伝子組換え技術を応用した場合については、「組換え型」と記載を付した。

株名については、原則、省略したが、他のワクチンの接種プログラムで特定の株名のワクチン投与が規定されている場合には記載した（日生研日本脳炎生ワクチン、“京都微研”、日本脳炎ワクチン、スィムジェン J E / P P V、“京都微研”、日本脳炎・豚パルボ混合生ワクチン及び“京都微研”、豚死産 3 種混合生ワクチン）。

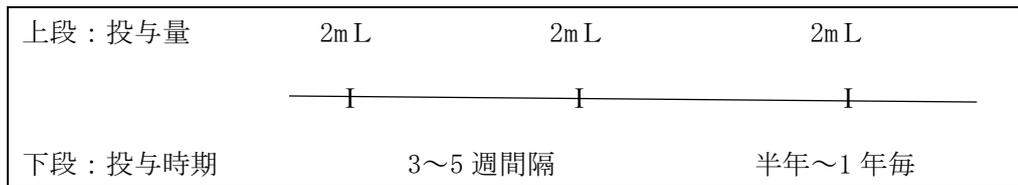
また、生・不活化の別及びアジュバントを含有する製剤にあつては、それぞれ（ ）内にその旨を記載した。「生」については、弱毒である。

エ 用法・用量及び効能・効果

品目ごとに承認申請書等での記載を原則そのまま記載した。ただし、品目が複数である製剤であつては、品目ごとに表現は異なるが、その内容が同等と判断した場合には、記載の統一を図った。また、用法・用量においては、用法が注射の製剤にあつては「注射」、それ以外の製品にあつては、「投与」と整理し、記載した（接種プログラム及び使用上の注意（抜粋）においても同じ）。さらに、豚以外の動物も対象となっている日生研日本脳炎 T C 不活化ワクチン、“京都微研”、日本脳炎ワクチン・K 及び破傷風トキソイド「日生研」に関しては、豚のみに限定した記載とした。

オ 接種プログラム

製造販売業者による注意事項等情報、パンフレット（「豚用ワクチンと診断液のご案内」（2001 年 社団法人動物用生物学的製剤協会編）を含む。）に掲載されている接種プログラムに関する内容を再検討し、これらの記載内容に基づき用法・用量とともに図（以下参照）及び文章の形式として整理した。図中においては、投与対象日齢等に限定がある場合には、その旨を記載した。また、文章においては、注意事項等情報をもとに疾病の発生時期、免疫持続等の有効性に関する情報について記載した。



カ 使用上の注意（抜粋）

製品の注意事項等情報における使用上の注意のうち、家畜衛生上（微生物の伝播の防止、免疫賦与、禁忌等）及び公衆衛生上（使用制限期間（と畜場への出荷の制限期間）

（注））の観点からの重要事項、使用制限、副反応に関する事項、使用者への注意等を抜粋し、記載した。なお、全体に共通する事項については、以下に記載した。

- ・注射器具（注射針）は、原則として1頭ごとに取り替えること
- ・移行抗体価の高い個体では、ワクチン効果が抑制されることがあるので、幼若な豚への投与は移行抗体が消失する時期を考慮すること（生ワクチン）
- ・2回注射による免疫を行う場合には、2回目の注射は、1回目と異なる部位に行うこと

（注）使用制限期間に関する記載（「本剤はと畜場出荷前〇〇日（週）間は使用しないこと。」）のない製剤にあつては、厚生労働省は、と畜場法施行規則の運用に当たり、生物学的製剤注射後20日以内の獣畜のと畜検査申請を受け付けず又は申請が行われないよう都道府県を指導している。

キ 参考情報

使用に際して、有効性の担保にとって有用な製品の特徴等を記載した。

（4）その他

接種プログラム等についてさらに詳細が必要な場合には、各製造販売業者にお問い合わせ願います。

「使用上の注意」を含む注意事項等情報については、各製品のQRコード等の二次元コード又は各製造販売業者のHP並びに農林水産省動物医薬品検査所HP（動物用医薬品等データベース <https://www.v.m.nval.go.jp>）から検索願います。

2 ワクチン一覧

2-1 ウイルスワクチン

(1) 1成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
1	日生研 日本脳炎 生ワクチン	日生研	日本脳炎ウイルス at株 (生)	乾燥ワクチンに添 付の溶解用液を加 えて溶解し、その 1 mLを豚の皮下 に注射する。	豚の日本脳炎の予 防及び日本脳炎ウ イルスによる死産 の予防	<p>4か月齢未満の子豚には1か月間隔で2回皮下注射することが望ましい。日本脳炎ウイルスの汚染期前に免疫を付与するため、本剤は通常4月から6月にかけて注射する(本病の原因ウイルスを媒介する吸血昆虫の活動時期は地域により異なるので注意する。)。繁殖豚では1年ごとに再注射する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本剤に含有されるウイルスは人獣共通感染症の病原体であるので、使用時には十分注意すること。 	
	“京都微研” 日本脳炎ワクチン	京都微研	日本脳炎ウイルス m株 (生)	乾燥ワクチンに添 付の溶解用液を加 えて溶解し、1 mL を頸側皮下に注 射する。	豚の日本脳炎感染 の予防、特に繁殖 用母豚にあつては 日本脳炎感染に起 因する死産予防			

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
2	日生研日本脳炎TTC不活化ワクチン	日生研	日本脳炎ウイルス (不活化)	日本脳炎生ワクチンat株で免疫した豚に1か月後2mLを皮下注射する。 前年度にワクチン歴を有する豚には2mLを皮下注射する。	日本脳炎ウイルス による豚の死産の 予防	1mL(※) ――― 1月間隔 2mL ――― (前年度にワクチン歴を有する豚) ――― 2mL ――― 日本脳炎ウイルスの汚染期前に免疫を付与するため、本剤は通常4月から6月にかけて注射する(本病の原因ウイルスを媒介する吸血昆虫の活動時期は地域により異なるので注意する。)		
3	“京都微研” 日本脳炎ワクチン・K	京都微研	日本脳炎ウイルス (不活化)(アジュバント)	(1) 日本脳炎生ワクチンとの併用注射法 第1回 “京都微研” 日本脳炎ワクチン1ドーズ(mL)皮下注射 第2回 “京都微研” 日本脳炎ワクチン・K 2mL 皮下注射 第1回と第2回の注射間隔は約1か月とする。 (2) 前年度に“京都微研” 日本脳炎ワクチンを注射した豚では2mLを皮下注射する。	豚の日本脳炎ウイルス感染による死産の予防	1mL(※) ――― 約1月間隔 2mL ――― ※：日本脳炎ウイルスm株を有効成分とする生ワクチン “京都微研” 日本脳炎ワクチン注射4週後に、本剤を追加注射し、経時的に赤血球凝集抑制抗体価を測定した結果、本剤による追加免疫効果が認められ、6か月後まで有効抗体価以上の抗体価を保持することが確認されている。 (前年度に※を注射した豚の場合) 2mL ―――		

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
4	ポーシリス Begonia DF・10 ポーシリス Begonia DF・50	松研 (販売は MSD AH)	オーエスキュー病ウイルス(生)(アジュバント)	乾燥ワクチンを添付の溶解用液で溶解し、その2mLを次の要領で豚の筋肉内に注射する。 ① 8～10週齢に1回、さらに必要がある場合には3週間以上の間隔をおいて1回追加注射する。 ② 妊娠豚においては、分娩前3～6週に1回、その後の追加免疫は各分娩前3～6週または年2回注射する。	豚のオーエスキュー病の予防	 	<ul style="list-style-type: none"> 本剤は国が定めたオーエスキュー病防疫対策要領に基づき使用すること。 本剤の注射後、SPF豚(SPFプライマリー豚等)では、一過性の軽度な発熱が認められることがある。 	
5	インゲルバックス サーコフレックス	ペーリンガー	豚サーコウイルス(2型・組換え型)(不活化)(アジュバント)	3週齢以上の豚に1頭当たり1mLを1回頸部筋肉内に注射する。なお、繁殖用雌豚においては、交配前7週から妊娠全期間にわたり1mLを頸部筋肉内に注射する。	豚サーコウイルス2型感染に起因する死亡率の改善、発育不良豚の発生率の低下の改善、臨床症状の改善、ウイルス血症発生率の低下及び繁殖用雌豚における繁殖成績の改善		<ul style="list-style-type: none"> アナフィラキシー反応が起こった場合は、エビネフリン投与が推奨される。 注射部位を厳守すること。 	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
6	ポーシリス P C V	MSDAH	豚サークコウウイルス (2型・組換え型) (不活化) (アジユ バント)	3週齢から9週齢 の豚にワクチンの 2mLを1回、頰 側部筋肉内に注射 する。ただし、豚 サークコウウイルス2 型の感染時期が早 期な場合、又は、 母豚からの移行抗 体の保有レベルに ばらつきが認めら れる場合には、3 日齢以上の豚にワ クチンの2mLを 3週間隔で2回注 射すること。	豚サークコウウイルス 2型感染に起因す る死亡率の改善及 び増体量の低下の 改善		<ul style="list-style-type: none"> 本剤は、と畜場出荷前5週間は使用しないこと。 妊娠中の繁殖用雌豚には注射しないこと。 注射部位を厳守すること。 	
7	ポーシリスP C V I D A L	MSDAH	豚サークコウウイルス (2型・組換え型) (不活化) (アジユ バント)	3週齢以上の豚の豚の 頰部皮内に専用の 針なし連続注射器 を用いて0.2mLを 1回注射する。	豚サークコウウイルス 2型感染及び発育 不良豚の発生率の 低減、増体重低下 の軽減、ウイルス 血症発生率及びウ イルス排泄量の低 減		<ul style="list-style-type: none"> 妊娠中の豚には注射しないこと。 注射器は専用の針なし注射器を用いること。 注射部位を厳守すること。 	皮内注射不活化ワクチン

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
8	サーコーバック	セバ	豚サーコーウイルス (2型) (不活化) (アジュバント)	<p>抗原液及びアジュバントの各バリエーションをそれぞれよく振盪した後に、抗原液全量をアールに注入し、泡立ちをなくし、程度にゆとり10回程度転倒混和し、下記の量を豚の耳根部後方の頸部筋肉内に注射する。</p> <p>3週齢以上の豚に0.5mLを1回注射する。ただし、繁殖雌豚に対しては以下の方法で免疫を行う。</p> <p>1. 初回免疫 1.1母豚候補豚1回2mLを交配前3～4週間隔で2回、さらには分娩前に1回の計3回注射する。ただし、2回目の注射は交配予定日の3～4週間前、3回目のは分娩予定日の2～4週間前に行う。</p> <p>1.2産歴のある妊娠豚1回2mLを3～4週間隔で2回注射する。ただし、2回目の注射は分娩予定日の2～4週間前に行う。</p> <p>2. 次回以降の免疫 (初回妊娠時以降の免疫) 1回2mLを、分娩予定日の2～4週間前に1回注射する。</p>	<p>1. 豚への注射における効能又は効果 豚への注射後の能動免疫による豚サーコーウイルス2型に伴う死亡率の改善、発育不良豚発生率の低減、増体率低下の改善、リンパ組織病変の軽減、臨床症状の改善、ウイルス血症及びウイルス排泄の低減</p> <p>2. 繁殖雌豚への注射における効能又は効果 繁殖雌豚への注射後の能動免疫によるPCV2感染による産子数や離乳頭数の減少の軽減、ならびに子豚における受動免疫によるPCV2感染に伴うリンパ組織における病変の軽減、PCV2に起因する斃死率及び臨床症状(斃死、発育不良及びリンパ節の腫脹)の軽減</p>	<p>0.5mL 3週齢以上</p> <p>1 初回免疫 母豚 2mL 候補豚 2mL 産歴のある妊娠豚 2mL</p> <p>3～4週間隔 3～4週間隔 2～4週間隔 2～4週間隔</p> <p>2 次回以降の免疫 (初回免疫豚と次回妊娠時以降の免疫) 2mL 2～4週間前 分娩予定日</p>	<p>・本剤は対象豚によって注量異なる(0.5mL又は2mL)ので注意すること。</p> <p>・本剤を繁殖雌豚に注射して子豚の受動免疫を期待する場合(2mL/頭)は、子豚が免疫母豚の乳汁を飲むことによって予防効果が発揮される。免疫母豚が十分な量の乳汁を分泌していることを確認するとともに、子豚が乳汁(初乳)を十分に飲むようにすること。それが不十分と考えられる場合には豚への能動免疫(0.5mL/頭)を実施すること。</p> <p>・注射部位を厳守すること。</p>	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
9	“京都微研” 豚パルボウイルス ン・K	京都微研	豚パルボウイルス (不活化)	繁殖豚に2mLを、 1～4週間隔で2 回、皮下に注射す る。	豚パルボウイルス による死産の予防	2mL ├───┤ 1～4週間隔 2mL ├───┤		

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
10	フォステラ PRRS	ゾエテイイス	豚繁殖・呼吸障害 症候群 ウイルス (生)	乾燥ワクチンに添 付の溶解用液を加 えた溶解し、その 2 mL を 1 日 齢 以 上の豚の筋肉内に 注射する。繁殖用 雌豚の繁殖成績改 善を目的とする場 合は、その 2 mL を 交配 3 ～ 6 週間前 に筋肉内に注射す る。	豚繁殖・呼吸障害 症候群 ウイルス感 染による呼吸器症 状の軽減、肺病変 の軽減及びウイル ス血症の予防なら びに繁殖用雌豚の 繁殖成績の改善	2mL ├───┬─── 1日齢以上 本剤を 1 日 齢 の子豚に注射した結果、注射後 26 週まで PRRS ウイルス感染による呼吸器症状 に対する免疫が持続することが確認されている。 繁殖用雌豚 2mL ├───┬───┬───┬─── 交配 3 ～ 6 週間前 交配 交配 交配 交配	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖用雌豚には注射しないこと。 ・本剤を幼弱な豚に注射する場合、母子免疫の影響を受けてワクチン効果が抑制される可能性がある。 ・野外ウイルスが体内で増殖している豚にワクチン注射をした場合、ワクチン株と野外ウイルスの組合せが起る可能性がある。組合せが起る可能性がある。 ・対象となる健康な子豚全頭に注射すること。 ・ PRRS 陰性農場では使用しないこと。 ・ PRRS 汚染農場に PRRS 陰性を導入する際にワクチンを注射する場合、ワクチン株が繁殖用豚へ伝播する機会を減少させるために、ワクチンを注射した豚を注射後 6 週間は繁殖用豚から隔離して飼育すること。 ・ワクチンウイルスは注射豚から排泄され水平感染する場合があるため、繁殖用雌豚へワクチンウイルスが伝播しないよう注射豚(群)の飼育管理には注意すること。 	
	インゲルバック PRRS 生ワク チン	ペーリンガー		乾燥ワクチンに添 付の溶解用液を加 えた溶解し、その 2 mL を 3 週 齢 以 上の豚の筋肉内に 注射する。なお、 繁殖用雌豚につい ては、その 2 mL を交配前 15 週から 全妊娠期間に筋肉 内に注射する。	豚繁殖・呼吸障害 症候群 ウイルス感 染による子豚の生 産阻害の軽減及び 繁殖用雌豚の繁殖 成績の改善	2mL ├───┬─── 3週齢以上 繁殖用雌豚 2mL (※) ├───┬───┬───┬─── 交配前 15 週 交配 分娩予定日 分娩予定日 ※：交配前 15 週～分娩予定日	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖用雌豚には注射しないこと。 ・本剤を幼弱な豚に注射する場合、母子免疫の影響を受けてワクチン効果が抑制される可能性がある。 ・野外ウイルスが体内で増殖している豚にワクチン注射をした場合、ワクチン株と野外ウイルスの組合せが起る可能性がある。組合せが起る可能性がある。 ・注射対象となる健康な子豚全頭に注射すること。 ・繁殖用雌豚を注射対象とする場合は、繁殖用雌豚群に対する一斉注射が推奨される。 ・ PRRS 陰性農場では使用しないこと。 ・ PRRS 汚染農場に PRRS 陰性を導入する際にワクチンを注射する場合、ワクチン株が繁殖用豚へ伝播する機会を減少させるために、ワクチンを注射した豚を注射後 6 週間は繁殖用豚から隔離して飼育すること。 ・ワクチンウイルスは注射豚から排泄され水平感染する場合があるため、繁殖用雌豚へワクチンウイルスが伝播しないよう注射豚(群)の飼育管理には注意すること。 	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
11	ユニストレイイン PRRS-10 ユニストレイイン PRRS-50	イブラ	豚繁殖・呼吸障害 症候群 ウイイルス (生)	乾燥ワクチンを添付の溶解用液で溶解し、2週齢以上の子豚に1頭当たり2mLを頸部筋肉内に注射する。	豚繁殖・呼吸障害症候群による子豚の生産障害の軽減	2mL ─── 2週齢以上 本ワクチンを2週齢以上の子豚に注射した結果、注射後2週間で免疫を維持することが確認されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・注射部位を厳守すること。 ・注射対象となる健康な子豚全頭に一斉に注射すること。 ・適正な検査によってPRRSV陰性と診断された農場で使用しないこと。 ・PRRS汚染農場にPRRS陰性豚を導入する際にワクチンを注射する場合、ワクチン株が繁殖用豚へ伝播する機会を減少させるために、ワクチンを注射した豚を注射後4週間は繁殖用豚から隔離して飼育すること。 ・ワクチンウイイルスは注射豚から排泄され水平感染する場があるため、妊娠中の雌豚及び繁殖用種雄豚へワクチンウイイルスが伝播しないよう注射豚(群)の飼育管理には注意すること。 ・妊娠豚にワクチンウイイルスが感染した場合、垂直感染する可能性があるため、妊娠豚へワクチンウイイルスが伝播しないように飼育管理には注意すること。 ・野外ウイイルスが体内で増殖している豚にワクチンを注射した場合、ワクチン株と野外ウイイルスの組換えが起る可能性があること。 ・本剤を幼弱な豚に注射する場合、母子免疫の影響を受けてワクチン効果が抑制される可能性があるため、それに応じて注射時期を考慮する必要がある。 	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
12	ユニストレイイン PRRS-50 ID	イブラ	豚繁殖・呼吸障害 症候群 ウイイルス (生)	乾燥ワクチンを添 付の溶解用液で溶 解し、イブラデ ルミックス*を用いて 2週齢以上の子豚 に1頭当たり 0.2mLを頸側部皮 内に注射する。(*: 専用の皮内接種用 針なし注射器)	豚繁殖・呼吸障害 症候群ウイイルス感 染による子豚の生 産障害の軽減	0.2mL ├── 2週齢以上 本ワクチンを2週齢以上の子豚に注射した結果、 注射後24週まで免疫を維持することが確認され ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・注射部位を厳守すること。 ・皮内注射にあたっては、医療機器として承認された皮内接種用針なし注射器を使用すること。 ・注射対象となる健康な子豚全頭に一斉に注射すること。 ・適正な検査によってPRRSV陰性と診断された農場で使用しないこと。 ・PRRS汚染農場にPRRS陰性豚を導入する際にワクチンを注射する場 合、ワクチン株が繁殖用豚へ伝播する機会を減少させるために、ワクチンを注射した豚を注射後4週間は繁殖用豚から隔離して飼育すること。 ・ワクチンウイイルスは注射豚から排泄され水平感染する可能性がある ので、妊娠中の雌豚及び繁殖用種 雄豚へワクチンウイイルスが伝播しないよう注射豚(群)の飼育管理には注意すること。 ・妊娠豚にワクチンウイイルスが感染した場 合、垂直感染する可能性があるため、妊娠豚へワクチンウイイルスが伝播しないよう飼育管理には注意すること。 ・野外ウイイルスが体内で増殖している豚にワクチンを注射した場合、 ワクチン株と野外ウイイルスの組換えが起 こる可能性が否定できない。 ・本剤を幼弱な豚に注射する場合、母子免 疫の影響を受けてワクチン効果が抑 制されることがあるため、それに 応じて注射時期を考慮する必要がある。 	皮内注射生ワクチン

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
13	スラインテクト PRRS-ME	日生研	豚繁殖・呼吸障害 症候群ウイイルス (不活化) (アジュ バント)	3週齢以上の豚に 3～5週間隔で1 回1mLずつを2 回、筋肉内に注射 する。	豚繁殖・呼吸障害 症候群ウイイルス感 染によるウイイルス 血症期間の短縮又 は軽減	<p>約4週齢の豚に用法及び用量どおりにワクチンを注射したところ、2週後にELISA抗体価は良好に上昇し、強毒株を用いた実験感染試験ではウイイルス血症期間の短縮並びに軽減効果が認められている。また、ウイイルス血症期間の短縮効果は2回目注射後、少なくとも約4か月は持続することが確認されている。</p>		
14	日生研PED生 ワクチン	日生研	豚流行性下痢ウイ ルス (生)	乾燥ワクチンに添 付の溶解用液を加 えて溶解し、その 2mLずつを2～ 8週間の間隔で妊 娠豚の筋肉内に2 回注射する。2回 目の注射は分娩予 定の約2週間前と する。	母豚を免疫し、そ の乳汁を哺乳させ ることによる子豚 の豚流行性下痢発 症の阻止又は軽減		<ul style="list-style-type: none"> ・本剤の注射時には、生後7日齢未満の幼若豚は、注射対象豚から隔離すること。 ・本剤は妊娠豚に注射し、子豚が免疫母豚の初乳及び常乳を飲むことで予防効果が発揮される。免疫母豚が十分量の乳を分泌しているかどうか、また、子豚が乳を十分に飲んでいるかどうかを確認すること。 	

(2) 2成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
15	“京都微研” 豚インフルエンザワクチン	京都微研	豚インフルエンザウイルスA型(2株)(不活化)(アジュバント)	豚の頸部皮下または筋肉内に2mLずつを3週間隔で2回注射する。	豚インフルエンザの予防	2mL ―― 3週間隔 2mL		
16	フォステラゴ ールドPCV	ゾエテイス	豚サーコウイルス(1型-2型キメラ)・豚サーコウイルス(1型-2型キメラ)(いずれも不活化)(アジュバント)	本剤2mLを3週齢以上の豚の頸部筋肉内に注射する。	豚サーコウイルス2型感染に起因する増体量抑制の軽減、ウイレルス血症及びウイレルス排泄の低減、並びにリンパ球減少の低減	2mL ―― 3週齢以上	豚サーコウイルス(PCR) 2a型、PCV2b型の攻撃試験により、本剤の有効成分について注射後3週までに免疫が成立し、注射後23週まで免疫が持続することが確認されている	
17	スィムジエン JE/PPV “京都微研” 日本脳炎・豚パ ルボ混合生ワク チン	KMB (販売は明治 AH) 京都微研	日本脳炎ウイルスm株・豚パルボウイルス(いずれも生)	乾燥ワクチンに添付の溶解用液を加えて溶解し、その1mLを豚の皮下に注射する。	豚の日本脳炎及び豚パルボウイルス感染症の予防。特に繁殖用母豚については、日本脳炎ウイルス感染による死産予防。	1mL ――	・本剤に含有される日本脳炎ウイルスは人獣共通感染症の病原体であるので、使用時には十分注意すること。	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
18	スィムジエン TGE / PED	KMB (販売は明治 AH)	豚伝染性胃腸炎ウイルス・豚流行性下痢ウイルス (いずれも生)	乾燥ワクチンに添付の溶解用液を加えて溶解し、その2 mLを妊娠豚の筋肉内に約3週間隔で2回注射する。第2回目注射は、分娩予定日の約2週間前とする。	乳汁免疫による子豚の豚伝染性胃腸炎の予防及び豚流行性下痢の発症軽減	妊娠豚 2mL — 3週間隔 約2週間前 分娩予定日 2mL — 2週間前 分娩予定日	<ul style="list-style-type: none"> 15日齢未満の子豚がいる豚舎 (分娩舎) では使用しないこと。 本剤は豚舎内に飛散させないよう注意し、もし飛散した場合は、直ちに消毒すること。 本剤は、妊娠豚に注射し、子豚が免疫母豚の乳汁を常に飲むことにより予防効果が発揮される。免疫母豚が十分量の乳汁を分泌しているかどうか、また乳汁を飲んでいない子豚がいまいかどうかを確認すること。 	
	日生研 TGE・PED混合生ワクチン	日生研		乾燥ワクチンに添付の溶解用液を加えて溶解し、その2 mLを4ないし8週間の間隔で妊娠豚の筋肉内に2回注射する。第2回目注射は、分娩予定日の約2週間前とする。	乳汁免疫による子豚の豚伝染性胃腸炎の軽減及び豚流行性下痢の発症の阻止若しくは軽減	妊娠豚 2mL — 4~8週間隔 約2週間前 分娩予定日	<ul style="list-style-type: none"> 種付3～4週間後に再発情のないことを確認し、第1回目の注射をすること。 本剤の注射時には、生後7日齢未満の幼若豚は、注射対象豚から隔離すること。 本剤は、妊娠豚に注射し、子豚が免疫母豚の初乳及び常乳を飲むことで予防効果が発揮される。免疫母豚が十分量の乳汁を分泌しているかどうか、また乳汁を飲んでいない子豚がいまいかどうかを確認すること。 	

2-2 細菌等ワクチン

(1) 1成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
1	豚丹毒生ワクチン「科飼研」 日生研豚丹毒生ワクチンC スィムジエンE r-l	科飼研 日生研 松研 (販売は明治AH)	豚丹毒菌 (生)	乾燥ワクチンに添付の溶解用液を加えて溶解し、1 mLを豚の皮下に注射する。	豚丹毒の予防	 <p>参考：標準的には以下の方法が推奨されます。 1 子豚では母豚からの移行抗体を考慮して1～2か月齢時に初回注射し、警戒反応がみられない場合には3か月齢時に再注射する。 2 繁殖産補豚及びび繁殖豚では、6か月間隔で補強注射する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本剤のワクチン株は、薬剤の影響を受けやすいので、本剤注射前3日間から注射後7日間ほどはワクチン株に影響を及ぼすような薬剤の投与又は飼料への添加は避けること。 • 本剤に含有される豚丹毒菌は、人獣共通感染症の病原体であるので、使用時には十分注意すること。 • 豚丹毒菌は、人に対して創傷部を中心とした紅斑、腫脹、リンパ管炎、敗血症、心内膜炎等の症状を示すことがある。 • 本剤注射後2～3日頃から注射部位局所にワクチン株による発赤、丘疹（警戒反応）が出現するが、この反応は1週間前後で消失する。 • SPF豚等、特に感受性の高い豚では警戒反応の観察される時期に、注射部位局所以外の体表に、発赤や丘疹が出現する場合がありますので、不活化ワクチンの使用を考慮すること。この発赤や丘疹が重度で、元氣・食欲の不振、発熱がみられた場合は、適切な処置を行うこと。（参考：ワクチン株は特にベニシリン系の薬剤に感受性が高いので、体重1kg当たり約50,000単位の持続性ベニシリンを3日間注射することが一般に有効とされている。） • 生ワクチン使用農場は非使用農場よりも有意に豚丹毒による廃棄率が低いものの、慢性型豚丹毒症例の一部において、生ワクチン株と区別できない株が分離されるとの報告があることから、使用の際にはリスクを理解の上、必要に応じて不活化ワクチンの使用を考慮すること。 	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
2	日生研豚丹毒不活化ワクチン	日生研	豚丹毒菌 (血清型 2) (不活化) (アジュバント)	5 週齢以上の豚に 1 mL ずつ 3 ~ 5 週間隔で 2 回、筋肉内に注射する。	豚丹毒の予防	<p>約 2.5 か月齢の豚に ワクチンを 3 週間隔で 2 回注射し、強毒株を用いて実験感染試験を行ったところ、1 回目注射後、少なくとも 5 か月間は免疫効果が持続することが確認されている。また、移行抗体保有豚に ワクチンを 3 週間隔で 2 回注射し、実験感染試験を行ったところ、感染防御効果が認められている。</p>		
3	スラインテクト SER-MIE	日生研	豚丹毒菌 (血清型 2) (不活化) (アジュバント)	3 週齢以上の豚に 1 回 0.5 mL ずつ 3 ~ 5 週間隔で 2 回、筋肉内に注射する。	豚丹毒の予防	<p>約 1 か月齢の豚に ワクチンを 3 週間隔で 2 回注射し、強毒株を用いて実験感染試験を行ったところ、2 回目注射後、少なくとも 18 週間は免疫効果が持続することが確認されている。</p>		
4	ポーシリス ER Y	松研 (販売は MSDAH)	豚丹毒菌 (血清型 2) 菌体抗原 (不活化) (アジュバント)	ワクチンの 2 mL を 4 週齢以上の豚に、4 週間隔で 2 回、頸部筋肉内に注射する。	豚丹毒の予防	<p>4 週齢と 8 週齢で 2 回注射を行い、血清型 1 型菌 (豚状株) に対して 26 週齢時まで効果を示すことが確認されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 注射部位を厳守すること。 	
5	ポーシリス STREPSUIS	MSDAH	ストレプトコッカス・スuis (2 型菌) (不活化) (アジュバント)	ワクチンの 2 mL を 2 週齢以上の豚に、3 週間隔で 2 回、頸部筋肉内に注射する。	ストレプトコッカス・スuis 血清型 2 型菌の感染による豚のレンサ球菌症の発症の軽減	<p>2 週齢と 5 週齢に ワクチン注射後、8 日目に攻撃試験を行い、更に 20 日間観察した結果、対照群では 5 頭中 3 頭死亡したが、試験群では死亡例がなく、ワクチンの効果が確認されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 注射部位を厳守すること。 	
6	エコポーシシガ	明治 AH	大腸菌無毒変異型志賀毒素 Stx2e (組換え型) (アジュバント)	生後 4 日齢以上の豚に 1 回 1 mL を頸部筋肉内に注射する。	浮腫病による死亡率の低減及び臨床症状の軽減		<ul style="list-style-type: none"> 本剤は妊娠豚に対する安全性は試験していないので、妊娠豚には注射しないこと。 	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
7	ベピュード	イブラ	大腸菌無毒化志賀毒素 S t x 2 e (組換え型) (アジュバント)	2日齢以上の豚の頸部筋肉内に1mLを注射する。	大腸菌が産生する S t x 2 e に起因する浮腫病による死亡率の低減と臨床症状の軽減並びに増体重低下の軽減	1mL ├─── 2日齢以上 攻撃試験において、本剤を注射した子豚では本剤注射21日後には免疫が成立することが確認され、また、注射3週後から肥育終了後(注射23週後)まで対照群と比較して有意に抗体価が高いことが確認されている。	・妊娠中及び泌乳中の本ワクチンの安全性については情報が得られていないため、使用しないこと。	
8	破傷風トキソイド「日生研」	日生研	破傷風トキソイド (アジュバント)	豚の頸部皮下に2mLを通常約2週間の間隔で2回注射する。	破傷風の予防	2mL ├─── 約2週間隔		
9	日生研MPS不活化ワクチン	日生研	マイコプラズマ・ハイオニューモニエ (不活化) (アジュバント)	3週齢以上の豚に1mLずつ3～5週間隔で2回、筋肉内に注射する。	豚のマイコプラズマ肺炎による肺病変形成の抑制ならびに増体重抑制及び飼料効率低下の軽減	1mL ├─── 3週齢以上 3～5週間隔		
10	インゲルバックマイコフレックス	ベーリンガー	マイコプラズマ・ハイオニューモニエ (不活化) (アジュバント)	3週齢以上の子豚に1mLを頸部筋肉内に1回注射する。	豚マイコプラズマ性肺炎による肺病変形成抑制及び増体重低下の軽減	1mL ├─── 3週齢以上	・本剤は、繁殖母豚には注射しないこと。 ・アナフィラキシー反応が起った場合は、エビネフリン投与が推奨される。 ・注射部位を厳守すること。	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
11	レスピシユア	ゾエテイス	マイコプラズマ・ハイオニューモニエ (不活化) (アジュバント)	生後1週齢から8週齢の子豚に2mL、さらに2週間後に2mLを頸部筋肉内に注射する。	豚のマイコプラズマ性肺炎による増体量抑制及び飼料効率低下の軽減	<p>2mL 1～8週齢 2週間隔 2mL</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本剤と他のワクチンとの同時注射は避けること。本剤注射後3週間以内は他のワクチン注射をしないことが望ましい。 注射部位を厳守すること。 	
	レスピシユア ワン	ゾエテイス		生後1日齢 (出生翌日)～10週齢の子豚の頸部筋肉内に2mLを注射する。	豚のマイコプラズマ性肺炎による肺炎変形成の抑制ならびに増体量抑制及び飼料効率低下の軽減	<p>2mL 1日～10週齢</p>		
12	エムパック	MSDAH	マイコプラズマ・ハイオニューモニエ (不活化) (アジュバント)	1週齢以上の子豚に1mLを2週間隔で2回、頸部筋肉内に注射する。又は、3週齢以上の子豚に2mLを1回、頸部筋肉内に注射する。	豚のマイコプラズマ性肺炎による肺炎変形成の抑制ならびに増体量抑制及び飼料効率低下の軽減	<p>1mL 1週齢以上 2週間隔 又は 2mL 3週齢以上</p> <p>3週齢の際に注射した場合、27週齢まで免疫が持続することが確認されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワクチンの注射回数は、農場の汚染状況によって選択すること。農場での汚染が少なく想定される場合に限り1回注射のスケジュールを選択すること。 移行抗体価の高い個体に1回注射をおこなう場合、血清抗体価の上昇が認められないことがある。 注射部位を厳守すること。 	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
13	ポーシリス M Hy o I D A L	MSDAH	マイコプラズマ・ ハイオニューモノ エ (不活化) (ア ジュババント)	2週齢以上の豚の豚の皮 頸部又は背部の皮 内に専用の針なし 連続注射器を用い て0.2mLを1回注 射する。ただし、 ポーシリスPCV IDALと同時に注 射する場合には、 3週齢以上の豚に 注射する。 針なし連続注射器 には、針なし連続 注射器IDAL (承 認番号：農林水産 省指合19動薬第 2526号) 又は針な し連続注射器 IDAL TWIN (承認 番号：農林水産省 指合3動薬第816号) を使用する。	豚のマイコプラズ マ性肺炎による肺 病変形成の抑制な らびに増体重抑制 及び飼料効率低下 の軽減	0.2mL ┆ 2週齢以上 (ポーシリスPCV IDAL と同時注射する場合) 0.2mL ┆ 3週齢以上	<ul style="list-style-type: none"> • 妊娠中の豚には注射しないこと。 • 注射器は専用の針なし連続注射器を用いること。 • 注射部位を厳守すること。 	皮内注射不活化ワクチン

(2) 2成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
14	エンテリゾール イリアイテイス FC エンテリゾール イリアイテイス TF	ベーリンガー	ローソニア トラセルラリス (生)	乾燥品を添付の溶解 用液で1頭当たり2ml に溶解し、3週齢以上 の豚に1回1頭当たり 2mlを経口投与する。 又は乾燥品を添付の 溶解用液で溶解した 豚の年齢に応じた適 量の飲水に1頭当たり 1回飲水投与する。 飲水投与の場合は4時 間で飲みきる量の飲水 に混合する。	豚のローソニア イントラセルラリス感 染症(急性出血性腸炎 を除く)による増体重 低下の軽減	経口投与 又は 飲水投与 2ml 3週齢以上 1頭分※ 3週齢以上 ※4時間で飲みきる量の飲水に混合する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本剤は、豚以外には投与しないこと。 ・本剤は弱毒生菌ワクチン株であり、投与された豚から排泄される可能性がある。同居感染試験では本ワクチン株の同居感染は認められていないが、ワクチンを投与していない豚と同居させない等の飼養管理上の適切な対応を行うこと。 ・飲水投与の場合、チオ硫酸ナトリウム(ハイポ) (0.055%)又は脱脂粉乳(スキムミルク) (0.25%)を添加することにより、残留塩素を除去した後に、添付の溶解用液で溶解したワクチンを混合すること。 ・飲水投与の場合は、日齢に応じ4時間で飲みきる量の飲水にワクチンを混合すること。 ・飲水量は日齢、季節などにより異なるために、ワクチン投与前に4時間で飲みきる飲水量を確認すること。 ・飲水投与の場合、豚に均等に投与するため、全部の豚が均等に飲めるように十分な飲水器を用意すること。 ・本剤のワクチン株は薬剤の影響を受けやすいので、本剤投与前3日間及び投与後3日間はワクチン株に影響を及ぼすような薬剤の注射、経口投与又は飼料中への添加は避けること。 ・使用禁止期間(休薬期間)の長い注射薬剤で治療した豚へのワクチンの投与には、ワクチン投与前に、注射した薬剤に応じた適切な期間をあけること。 ・妊娠豚への安全性は確認されていない。 	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
15	グレーサーバスター	科飼研	ヘモフィルス・パラスイス(血清型2)、ヘモフィルス・パラスイス(血清型5)(いずれも不活化)(アジュバント)	30日齢以上の豚に2～4週の間隔で1回1mLずつを2回、筋肉内に注射する。	ヘモフィルス・パラスイス血清型2菌及び5菌の感染によるグレーサー病の予防	1mL 30日齢以上 2～4週間隔 1mL		
	日生研グレースター病2価ワクチン	日生研				1mL 30日齢以上 2～4週間隔		
16	日生研ARBP混合不活化ワクチンME	日生研	ボルデテラ・プロンキセプチカ(I相菌)(不活化)、パストツレラ・ムルトシダ(莢膜抗原型D)皮膚壊死毒素(アジュバント)	妊娠豚に対し、1回2mLずつを1～2か月の間隔で2回、筋肉内に注射する。ただし、2回目の注射は分娩予定日の2～4週前に行う。次回以降の繁殖時に行う補強注射は、2mLをその分娩予定日の2～4週前に1回、筋肉内に行う。	ボルデテラ・プロンキセプチカ及び毒素産生パストツレラ・ムルトシダの混合感染、又はそのいずれかの菌の感染による豚の萎縮性鼻炎の予防	初回 2mL 1～2週間隔 2～4週間前 妊娠豚 次回以降 2mL 2～4週間前 分娩予定日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種付予定前10日以内のもの、哺乳中のも、種付後20日以内及び分娩前1週以内のものには、注射しないこと。 ・ 本剤は、母豚に注射し、その子豚が免疫母豚の初乳を飲むことで予防効果が発揮される。免疫母豚が十分な初乳を分泌しているかどうか、また初乳を飲んでいない子豚がいまいかどうか確認すること。 	
							<p>30日齢の豚に用法及び用量どおりにワクチンを注射したところ、2週後にCF抗体価は4倍以上に上昇し、2型菌あるいは5型菌の実験感染試験では発症予防効果を示した。また、その効果は、ワクチンを4週間隔で2回注射後、少なくとも79日後まで持続することが確認されている。</p> <p>初産豚では1ないし2か月間隔で2回注射、2産目以降では分娩の2又は4週前に1回追加注射することにより、良好な抗体応答が認められ、初乳には感染防御に有効な高価の移行抗体が確認されている。</p>	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
17	ルニセン	イブラ	ボルデテラ・ブロンキセプチカ (不活化)、無毒変異型バスターラ・ムルトシダ (莖膜抗原型D) 皮膚壊死毒素 (組換え型) (アジュバント)	以下のスケジュールに基づき頸部筋肉内に1回当たり2mLを注射する。基本投与：これまでに本製品が投与されていない妊娠豚に3～4週の間隔を空けて2回注射する。1回目の注射は分娩予定日の6～8週間前に行う。補強投与：次回以降の分娩予定日の3～4週間前に1回注射する。	毒素産生パストセラ・ムルトシダの感染又は毒素産生バスターラ・ムルトシダ及びボルデテラ・ブロンキセプチカの混合感染による豚の萎縮性鼻炎の予防	<p>接種プログラム</p> <p>基本投与</p> <p>補強投与</p>	<p>使用上の注意 (抜粋)</p> <p>・本剤は母子免疫付与を目的として使用されるもので、子豚が免疫母豚の初乳を飲むことによる移行抗体を得ることができ、免疫母豚が十分量の初乳を分泌しているかどうか、また初乳を飲んでいない子豚がいないかどうかを確認すること。</p>	
18	スィムジエン ART ₂	KMB (販売は明治 AH)	無毒変異型ボルデテラ・ブロンキセプチカ皮膚壊死毒素、無毒変異型バスターラ・ムルトシダ皮膚壊死毒素 (いずれも組換え型) (アジュバント)	妊娠豚に対し、2mLを分娩前5～6週及び2週前に2回の筋肉内に注射する。次回の分娩からは2mLを分娩前2週間後の1回、筋肉内に注射する。	ボルデテラ・ブロンキセプチカ及び毒素産生バスターラ・ムルトシダの混合感染、又はそのいずれかの菌の感染による豚の萎縮性鼻炎の予防	<p>接種プログラム</p> <p>初回</p> <p>妊娠豚</p> <p>次回以降</p>	<p>使用上の注意 (抜粋)</p> <p>・母子免疫の目的で本剤を母豚に使用する際は、子豚が免疫母豚の初乳を飲むことで予防効果が発揮される。免疫母豚が十分量の初乳を分泌しているかどうか、また、初乳を飲んでいない子豚がいないかどうかを確認すること。</p> <p>本剤を母豚に注射した場合、子豚の移行抗体価はボルデテラ・ブロンキセプチカ、バスターラ・ムルトシダいずれも3か月齢前後まで持続することが確認されている。</p>	

(3) 3成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
19	アラダイケータ ー	ゾエティス	ボルデテラ・ブロンキセプチカ (I相菌) (不活化)、パスツレラ・ムルトシダ (莖膜抗原型D) (不活化)、パスツレラ・ムルトシダ (莖膜抗原型D)壊死毒素(アジュバント)	妊娠豚に対し、1回 2 mL ずつを分娩予定日の6及び2週間前の2回、頸部筋肉内に注射する。次回以降の繁殖時に行う補強注射は、2 mL をその分娩予定日の2週間前に1回、頸部筋肉内に行う。	ボルデテラ・ブロンキセプチカ及び毒素産生パスツレラ・ムルトシダ (A及びD型) の感染による産子における豚萎縮性鼻炎の予防		<ul style="list-style-type: none"> 本剤と他のワクチンとの同時注射は避けること。本剤注射後3週間以内は他のワクチンを注射しないことが望ましい。 本剤は、妊娠豚に注射し、子豚が免疫母豚の初乳を飲むことで予防効果が発揮される。免疫母豚が十分量の初乳を分泌しているかどうか、また初乳を飲んでいない子豚がいないかどうか確認すること。 注射部位を厳守すること。 	
20	日生研 A R B P・豚丹毒混合 不活化ワクチン	日生研	ボルデテラ・ブロンキセプチカ (I相菌) (不活化)、パスツレラ・ムルトシダ (莖膜抗原型D) 皮膚壊死毒素、豚丹毒菌 (血清型2) (不活化) (アジュバント)	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠豚に用いる場合 1回 5 mL ずつを1～2か月の間隔で2回、筋肉内に注射する。ただし、2回目の注射は分娩予定日の約1か月前に行う。 子豚に用いる場合 5週齢以上の子豚に1回 1 mL ずつを3～5週間隔で2回、筋肉内に注射する。 	ボルデテラ・ブロンキセプチカ並びに毒素産生パスツレラ・ムルトシダの感染による豚の萎縮性鼻炎 (A R) 及び豚丹毒の予防		<ul style="list-style-type: none"> 種付予定前10日以内のもの、哺乳中のもので、種付後20日以内及び分娩前20日以内のものには、注射しないこと。 	<p>5週齢の際に用法及び用量どおりにワクチンを注射したところ、ボルデテラ・ブロンキセプチカ (Bb) 凝集抗体及びパスツレラ・ムルトシダ・トキソイド (Pm-T) ELISA 抗体の良好な抗体上昇が認められている。また、豚丹毒菌を実験的に感染させたところ、発症防御効果が認められた。ワクチン注射後、Bb に対し有効な免疫は18週、Pm-T に対し有効な免疫は10週、豚丹毒菌に有効な免疫は19週まで持続することが確認されている。</p>

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
21	スィムジエン ART ₂ /ER	KMB (販売は明治 AH)	無毒変異型ボルデ テラ・プロンキセ プチカ皮膚壊死毒 素(組換え型)、 無毒変異型パスト セラ・ムルトシダ 皮膚壊死毒素(組 換え型)、豚丹毒 菌表層防御抗原 (組換え型)(アジ ユバント)	妊娠豚に対し、2 mLを分娩前5～ 6週及び2週前に注 射する。次回の分 娩からは2mLを 分娩前2週間後に注 射する。	豚丹毒の予防並び にボルデテラ・プ ロンキセプチカ及 び毒素産生パスト セラ・ムルトシダ の混合感染又はそ のいずれかの菌の 感染による豚の萎 縮性鼻炎の予防	初回 2mL 5～6週間前 分娩予定日 妊娠豚 次回以降 2mL 2週間前 分娩予定日 本剤を母豚に注射した場合、子豚の移行抗体価 はボルデテラ・プロンキセプチカ、パストセラ・ ムルトシダいずれも3か月齢前後まで持続する ことが確認されている。	・母子免疫の目的で本剤を 母豚に使用する際は、子豚 が免疫母豚の初乳を飲むこ とで予防効果が発揮され る。免疫母豚が十分量の初 乳を分泌しているかどうか、 また、初乳を飲んでい ない子豚がいないかどうか を確認すること。	
22	マイコバスター ARプラス	科飼研	ボルデテラ・プロ ンキセプチカ破砕 上清(皮膚壊死毒 素)、パストセラ・ ムルトシダトキシ イド、マイコプラ ズマ・ハイオニエ ーモニエ(不活化) (アジユバント)	生後1週齢から4 週齢の子豚に1頭 当たり1mL、さら に2週間後から4 週間後に1mLを 筋肉内に注射す る。	豚の萎縮性鼻炎の 予防及び豚マイコ プラズマ肺炎によ る肺病変形成抑制 及び増体量・飼料 効率低下の軽減	1mL 1～4週齢 2～4週間隔 4週齢の際に2週間隔で2回注射後、ボルデテ ラ・プロンキセプチカに対しては少なくとも18 週齢まで、パストセラ・ムルトシダとマイコプ ラズマ・ハイオニエーモニエに対しては少なく とも25週齢まで、免疫効果が持続することが確 認されている。		

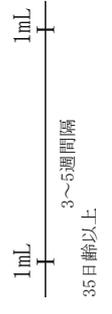
(4) 4成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
23	ポシーリス A PP-N	松研 (販売はMSDAH)	アクチノバシラ ス・プルロニエ モニエA p x I ト キソイド、アクチ ノバシラス・プル ロニエーモニエA p x II トキソイ ド、アクチノバシ ラス・プルロニエ ーモニエA p x III トキソイド、アク チノバシラス・プ ルロニエーモニエ 菌体外膜蛋白 (O MP) (アジュバ ント)	ワクチンの2mL を6週齢以上の豚 に4週間隔で2 回、頸部筋肉内に 注射する。	豚のアクチノバシ ラス・プルロニエ ーモニエ血清型 1、2、5、7、9、 10型菌感染症 (胸 膜肺炎) の発症防 御		<ul style="list-style-type: none"> •注射部位を厳守すること。 	
24	“京都微研”ピ ッグウイン- E A	京都微研	豚丹毒菌抽出抗 原、アクチノバシ ラス・プルロニエ ーモニエ (血清型 1)、アクチノバ シラス・プルロニ エーモニエ (血清 型2)、アクチノ バシラス・プルロ ニエーモニエ (血 清型5a) (いず れも不活化) (ア ジュバント)	約30～50日齢豚の 耳根部後方頸部筋 肉内に1mL注射 する。その後90日 齢までに約30～60 日間隔で反対側の 耳根部後方頸部筋 肉内に1mL注射 する。	豚丹毒及びびアクチ ノバシラス・プル ロニエーモニエ血 清型1、2、5型 菌感染症の予防		<ul style="list-style-type: none"> •注射部位を厳守すること。 	<p>本剤の対象病原体に対する抗体陰性の約30日齢の豚10頭に、本剤を1か月間隔で2回、耳根部後方頸部筋肉内に注射し、第2回注射後4か月目に豚丹毒菌藤沢株、アクチノバシラス・プルロニエーモニエ (APP) Y-1株 (血清型1型)、APP G-4株 (血清型2型) 及びAPP E-3株 (血清型5a型) による攻撃試験を実施した。攻撃時の各病原体に対する抗体価は、いずれも有効抗体価以上を維持しており、また、攻撃試験終了後の各臓器より攻撃菌が分離されなかつたことから、第2回注射後4か月間は本剤の有効性が持続することが確認されている。</p>

(5) 5成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
25	ポーシリスAPR P+ERY TU	MSDAH	アクチノバシラ ス・プルロニエ モニエA p x I ト キソイド、アクチ ノバシラス・プル ロニエーモニエA p x II トキソイ ド、アクチノバシ ラス・プルロニエ ーモニエA p x III トキソイド、アク チノバシラス・プ ルロニエーモニエ 菌体外膜蛋白 (O MP)、豚丹毒菌 (血清型 2) 菌体 抗原 (不活化) (ア ジュバント)	6 週齢以上の豚の 頸部筋肉内に 4 週 間隔で 2 mL を 2 回注射する。	豚のアクチノバシ ラス・プルロニエ ーモニエ血清型 1、2、5、7、 9 及び 10 型菌感染 症 (胸膜肺炎) の 発症防御及び豚丹 毒の予防	<p>2mL 4週間隔 6週齢以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> •注射部位を厳守すること。 	

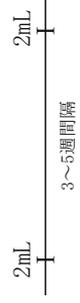
(6) 6成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
26	日生研豚A P ワ クチン1 2 5 R X	日生研	アクチノバシラ ス・プルロニエ モニエ (血清型 1)、アクチノバ シラス・プルロ ニエモニエ (血 清型 2)、アクチ ノバシラス・プル ロニエモニエ (血 清型 5) (いずれ も不活化)、無毒 変異型アクチノバ シラス・プルロニ エモニエ r A p x I タンパク、無 毒変異型アクチノ バシラス・プルロ ニエモニエ r A p x II タンパク、 無毒変異型アクチ ノバシラス・プル ロニエモニエ r A p x III タンパク (いずれも組換え 型) (アジュバ ント)	35日齢以上の豚に 3～5週間隔で1 回 1 mLずつを 2 回、頸部筋肉内に 注射する。	豚のアクチノバシ ラス・プルロニエ モニエ血清型 1、2及び5菌感 染症の予防	 <p>35日齢以上 3～5週間隔 1mL 1mL</p> <p>35日齢の豚に3週間隔で2回ワクチンを注射し、 2週後にアクチノバシラス・プルロニエモニ エ (App) 1型菌、2型菌及び5型菌の病原性株 を用いて実験感染試験を行ったところ、肺病変 スコアの低減効果が認められている。また、40 日齢の豚に4週間隔で2回ワクチンを注射し、 8週後に同様に実験感染試験を行った場合にも 同様の肺病変抑制効果が認められ、免疫効果の 持続が確認されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> •注射部位を厳守すること。 	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
27	スワインテクト APX-ME	日生研	ア ク チ ノ バ シ ラ ス ・ プ ル ロ ニ モ エ （ 血 清 型 1 ） 、 ア ク チ ノ バ シ ラ ス ・ プ ル ロ ニ モ エ （ 血 清 型 2 ） 、 ア ク チ ノ バ シ ラ ス ・ プ ル ロ ニ モ エ （ 血 清 型 5 ） （ い ず れ も 不 活 化 ） 、 無 毒 変 異 型 ア ク チ ノ バ シ ラ ス ・ プ ル ロ ニ モ エ I A p x I タ ン パ ク 、 無 毒 変 異 型 ア ク チ ノ バ シ ラ ス ・ プ ル ロ ニ モ エ I A p x II タ ン パ ク 、 無 毒 変 異 型 ア ク チ ノ バ シ ラ ス ・ プ ル ロ ニ モ エ I A p x III タ ン パ ク （ い ず れ も 組 換 え 型 ） （ ア ジ ュ バ ン ト ）	3 週 齢 以 上 の 豚 に 3 回 1 mL づ つ を 2 回 、 頸 部 筋 肉 内 に 注 射 す る。	豚 の ア ク チ ノ バ シ ラ ス ・ プ ル ロ ニ モ エ 血 清 型 1 、 2 及 び 5 菌 感 染 症 の 予 防	1mL 3週齢以上 1mL 3～5週間隔	・注射部位を厳守すること。	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
28	リターガードL T-C	ゾエティス	大腸菌 K88線毛抗原、大腸菌 K99線毛抗原、大腸菌 987P 線毛抗原、大腸菌 F41線毛抗原、大腸菌易熱性エンテロトキシン B (不活化)、クロストリジウム・パーフリジンゲンス C型β毒素トキソイド (アジュバント)	妊娠豚の頸部筋肉内に 2mL 注射する。分娩の約 6 週間前に初回注射を行い、3 週間後に 2 回目の注射を行う。次回の妊娠からは分娩の約 3 週間前に 1 回注射を行う。	哺乳豚の K88、K99、987P、F41線毛抗原及び易熱性エンテロトキシン産生大腸菌による下痢並びにクロストリジウム・パーフリジンゲンス C型菌による壊死性腸炎の予防	<p>初回 約6週間前 2mL 妊娠豚 次回以降 約3週間前 2mL</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本剤と他のワクチンとの同時注射は避けること。本剤注射後 3 週間以内は他のワクチンを注射しないことが望ましい。 本剤は、妊娠豚に注射し、哺乳豚が免疫母豚の初乳を飲むことで予防効果が発揮されるため、免疫母豚が十分な初乳を分泌しているか、また、初乳を飲んでいない哺乳豚がいないか確認すること。 注射部位を厳守すること。 	
29	エンテリコリックス	ペーリガン	大腸菌 F6線毛抗原、大腸菌 F18ab 線毛抗原、大腸菌 F4ac 線毛抗原、大腸菌 F18ac 線毛抗原、大腸菌 F5 及び F41線毛抗原 (いずれも不活化)、クロストリジウム・パーフリジンゲンス C型βトキソイド (アジュバント)	妊娠豚の頸部筋肉内に 1 回 2 mL を注射する。初回投与時は、分娩 7 週間前に 1 回目の注射を行い、分娩 4 週間前に 2 回目の注射を行う。次回の妊娠からは分娩の 4 週間前に 1 回注射する。	哺乳豚の豚における大腸菌症に起因する死亡率の低減及び臨床症状 (重篤な下痢) の軽減、並びにクロストリジウム・パーフリジンゲンス C 型菌による壊死性腸炎に起因する死亡率の低減及び臨床症状の軽減。 離乳後早期の豚における浮腫病による死亡率の低減及び臨床症状の軽減、大腸菌症に起因する死亡率の低減及び臨床症状 (重篤な下痢) の軽減、並びにクロストリジウム・パーフリジンゲンス C 型菌による壊死性腸炎に起因する臨床症状の軽減。	<p>初回 7週間前 2mL 妊娠豚 次回以降 4週間前 2mL</p> <p>離乳期の免疫持続期間を確認した試験では、大腸菌性下痢症及び壊死性腸炎については 21 日齢まで、浮腫病については 28 日齢まで有効性が確認されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分娩前 4 週未満の妊娠豚に対する安全性及び有効性は確認されていないため、使用しないこと。 	

(5) 7成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
30	日生研豚A P M 不活化ワクチン	日生研	<p>アクチノバシラス・プルロニエモニエ (血清型 1)、アクチノバシラス・プルロニエモニエ (血清型 2)、アクチノバシラス・プルロニエモニエ (血清型 5) (いずれも不活化)、無毒変異型アクチノバシラス・プルロニエモニエ I A p x I タンパク、無毒変異型アクチノバシラス・プルロニエモニエ I A p x II タンパク、無毒変異型アクチノバシラス・プルロニエモニエ I A p x III タンパク (いずれも組換え型)、マイコプラズマ・ハイオニエ (アジュバント)</p>	<p>3 週齢以上の豚に 3 回 2 mL ずつを 2 週、筋肉内に注射する。</p>	<p>豚のアクチノバシラス・プルロニエモニエ血清型 1、2 及び 5 菌感染症の予防ならびに豚のマイコプラズマ肺炎による肺病変形成の抑制ならびに増殖率低下の軽減</p>	 <p>3 週齢以上 2mL 3～5週間隔 2mL</p> <p>アクチノバシラス・プルロニエモニエ (App) 陰性の 3 週齢の豚に 3 週間隔で 2 回 ワクチンを注射し、2 回注射後 2 週に App2 型菌の病原性株を用いて実験感染試験を行ったところ、肺病変スコアの低減効果が認められている。また、マイコプラズマ・ハイオニエモニエ (Mhp) 陰性の 3 週齢の豚に 3 週間隔で 2 回 ワクチンを注射し、2 回注射後 2 週に Mhp 病原性株による実験感染試験を行ったところ、肺病変形成の抑制効果が認められている。App 及び Mhp 陰性の豚に 4 週間に同様な実験感染試験を行った場合にも肺病変抑制効果が認められ、ワクチンの効果は少なくとも 2 回注射後 8 週まで持続することが確認されている。</p>		

2-3 ウイルス・細菌の混合ワクチン

(1) 2成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
1	インゲルバックス フレックスコン ボ ミックス	ベーリンガー	豚サールウイルス (2型・組換え型)、 マイコプラズマ・ ハイオニューモニ エ (いづれも不活 化) (アジュバ ント)	豚サールウイルス 2型不活化抗原及 びマイコプラズマ ハイオニューモニ エ不活化抗原のそ れぞれ全量を混合 したもの、2mLの を、3～5週齢の 子豚の頸部筋肉内 に1回注射する。製 品では、豚サール ウイルス2型不活 化抗原の容器とマ イコプラズマ ハ イオニューモニエ 不活化抗原の容器 を結合すること により、混合する。 マイコプラズマ ハ イオニューモニエ 不活化抗原がヘッ ドスペース容器の 製品では、添付の 連結針を用いて、 豚サールウイルス 2型不活化抗原の 全量をマイコプラ ズマ ハイオニュー モニエ不活化抗 原に注入し、混合 する。	豚サールウイルス 2型感染に起因す る死亡率の改善、 発育不良豚の発生 率の低下、増体量 の低下の改善、臨 床症状の改善及び ウイルス血症発生 率の低下、並びに 豚マイコプラズマ 性肺炎による肺病 変形成抑制と増体 量低下の軽減	2mL ―― ―― 3～5週齢	<ul style="list-style-type: none"> ・アナフィラキシー反応が起った場合は、エビネフリン投与が推奨される。 ・本剤は、他のワクチンとの同時投与は避けること。また、本剤注射後3週間以内は他のワクチンを投与しないことが望ましい。 ・注射部位を厳守すること。 	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
2	ポーシリスPC VMHy o	MSDAH	豚サークコウウイルス (2型・組換え型)、 マイコプラズマ・ ハイオニューモニ エ (いづれも不活 化) (アジュバ ント)	3週齢以上の豚の 頸部筋肉内に2mL を1回注射する。	豚サークコウウイルス 2型感染に起因す る死亡豚及び発育 不良豚の発生率の 低減、増体量低下 の軽減、ウイルス 血症発生率及びウ イルス排泄量の低 減、並びに豚マイ コプラズマ性肺炎 による肺病変形成 の抑制及び増体重 低下の軽減	2mL ├── 3週齢以上	<ul style="list-style-type: none"> • 妊娠中の豚には注射しな いこと。 • 注射部位を厳守すること。 	

(2) 3成分の製剤

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
3	フルッシュアER	ゾエテイス	豚インフルエンザウイルスA型(2株)・豚丹毒菌(いずれも不活化)(アジュバント)	乾燥ワクチンを液状ワクチンで完全に溶解し、その2mLを6週齢以上の健康な豚の頸部筋肉内に3週間の間隔で2回注射する。	豚インフルエンザの発症防衛及び豚丹毒の予防		<ul style="list-style-type: none"> 本剤は妊娠豚には注射しないこと。 本剤と他のワクチンとの同時注射は避けること。本剤注射後3週間以内は他のワクチンを注射しないことが望ましい。 注射部位を厳守すること。 	
4	フォステラゴールドPCV MH	ゾエテイス	豚サーコウイルス(1型-2型キメラ)、豚サーコウイルス(1型-2型キメラ)、マイコプラズマ・ハイオニエモニエ(いずれも不活化)(アジュバント)	本剤2mLを3週齢以上の豚の頸部筋肉内に注射する。	豚サーコウイルス2型感染に起因する死亡率及び発育不良豚発生率の低減、増体重抑制の軽減、臨床症状の改善、ウイルス血症及びウイルス排泄の低減、並びにリンパ球減少の低減。 豚マイコプラズマ性肺炎による肺病変形成の抑制、並びに増体重抑制及び飼料効率低下の軽減。		<ul style="list-style-type: none"> 注射部位を厳守すること。 	

一連番号	製品名	製造販売業者名 (略称)	有効成分名	用法・用量	効能・効果	接種プログラム	使用上の注意 (抜粋)	参考情報
5	インゲルバック 3フレックス	ベアリンガー	豚サージコウウイルス (2型・組換え型)、 マイコプラズマ、 ハイオニオニオニ エ (いずれも不活 化)、豚繁殖・呼 吸障害症候群ウイ ルス (生) (アジ ユバント)	豚サージコウウイルス2 型不活化抗原、マイ コプラズマ、ハイオ ニオニオニエ不活 化抗原及び豚繁殖・呼 吸障害症候群ウイ ルス乾燥抗原のそれ ぞれ全量を混合した ものを、3～5週齢 の子豚の頸部筋肉 内に1回注射する。 マイコプラズマ、 ハイオニオニエ不活 化抗原がヘッドス ペースの製品では、 添付の連結針を用 いて、豚サージコウ ウイルス2型不活化 抗原の全量をマイコ プラズマ、ハイオニ オニエ不活化抗原 に注入し混合した 後、その全量を豚 繁殖・呼吸障害症 候群ウイルス乾燥 抗原に混合する。 マイコプラズマ、 ハイオニオニエ不活 化抗原がヘッドス ペースの製品の製 品では、滅菌済の 注射器を用いて豚 サージコウウイルス 2型不活化抗原及 びマイコプラズマ、 ハイオニオニエ不 活化抗原のそれぞれ の全量を吸引し、 両抗原の総量以上 の容量の滅菌済混 合用容器にそれぞれ 全量を注入し混合 した後、その全量 を豚繁殖・呼吸障 害症候群ウイルス 乾燥抗原に注入し 混合する。	豚サージコウウイルス 2型感染に起因す る死亡率の改善、 発育不良豚の発生 率の低下の改善、 臨床症状の改善及 びウイルス血症発 生の低減。豚マイ コプラズマ性肺炎 による肺病変形成 抑制及び増体量低 下の軽減。豚繁殖 ・呼吸障害症候群 ウイルス感染によ る子豚の生産阻 害の軽減。	2mL ├── 3～5週齢	<ul style="list-style-type: none"> 適切に抗原を混合するため使用説明書をよく読むこと。 繁殖用雌豚及び繁殖用雄豚には注射しないこと。 PRRS 陰性農場では使用しないこと。 注射対象となる健康な子豚全頭に一斉に注射すること。 PRRS 汚染農場に PRRS 陰性豚を導入する際にワクチンを注射する場合、PRRS ワクチン株が他の豚へ伝播する機会を減少させるために、ワクチンを注射した豚を接種後6週間は隔離して飼育すること。 PRRS ワクチンウイルスは注射豚から排泄される水平感染する場 合があるので、ワクチンウイルスが伝播しないように注射豚(群)の飼育管理には注意すること。 野外 PRRS ウイルスが体内で増殖している豚にワクチン注射した 場合、PRRS ワクチン株と野外ウイルスの 組換えが起こる可能性が否定できない。 本剤を幼若な豚に注射する場合、母 子免疫の影響を受けてワクチン効果が抑制されることがある。 過敏な体質の豚では、注射後短時間 内でアナフィラキシー様反応を呈する 場合がある。アナフィラキシー反 応が起こった場合は、エピネフリン投 与が推奨される。 本剤は、他のワクチンとの同時投与は避 けること。また、本剤注射後3週 間以内は他のワクチン投与しないこ とが望ましい。 注射部位を厳守すること。 	

表 ワクチン一覧におけるワクチンと含有するウイルス・細菌の名称一覧

製品名	ページ	ウイルス名										細菌名									
		日本脳炎ウイルス	豚パルボウイルス	豚ゲタウイルス	オースキー病ウイルス	豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルス	豚流行性下痢ウイルス	豚伝染性胃腸炎ウイルス	豚サコウイルス2型	豚インフルエンザウイルス	豚丹毒菌	パストツレラ・ムルトシダ	ボルデテラ・ブロンキセプチカ	マイコプラズマ・ハイオニューモニエ	アクチノバシラス・プルロニューモニエ	大腸菌	クロストリジウム・パーフリンゲンス	ストレプトコッカス・スイス	破傷風菌	ヘモフィルス・パラスイス	ローソニア イントラセルラリス
(2-1 ウイルスワクチン)																					
日生研日本脳炎生ワクチン	4	○																			
“京都微研,日本脳炎ワクチン	4	○																			
日生研日本脳炎TC不活化ワクチン	5	○																			
“京都微研,日本脳炎ワクチン・K	5	○																			
“京都微研,豚パルボワクチン・K	9		○																		
スィムジェンJE/PPV	14	○	○																		
“京都微研,日本脳炎・豚パルボ混合生ワクチン	14	○	○																		
“京都微研,豚死産3種混合生ワクチン	16	○	○	○																	
ボーシリス Begonia DF・10	6				○																
ボーシリス Begonia DF・50	6				○																
フォステラPRRS	10					○															
インゲルバック PRRS生ワクチン	10					○															
ユニストレインPRRS-10	11					○															
ユニストレインPRRS-50	11					○															
ユニストレインPRRS-50 ID	12					○															
スワインテクトPRRS-ME	13					○															
日生研PED生ワクチン	13							○													
スィムジェンTGE/PED	15							○	○												
日生研TGE・PED混合生ワクチン	15							○	○												
フォステラゴールドPCV	14								○												
インゲルバック サークofレックス	6									○											
ボーシリスPCV	7									○											
ボーシリスPCV IDAL	7									○											
サーコバック	8									○											
“京都微研,豚インフルエンザワクチン	14										○										
(2-2 細菌等ワクチン)																					
豚丹毒生ワクチン「科飼研」	17									○											
日生研豚丹毒生ワクチンC	17									○											
スィムジェンEr-L	17									○											
日生研豚丹毒不活化ワクチン	18									○											
スワインテクトSER-ME	18									○											
ボーシリスERY	18									○											
日生研ARBP・豚丹毒混合不活化ワクチン	25									○	○	○									
スィムジェンrART2/ER	26									○	○	○									
日生研ARBP混合不活化ワクチンME	23									○	○	○									
ルニセン	24										○	○									
スィムジェンrART2	24										○	○									
アラディゲーター	25										○	○									
マイコバスターARプラス	26										○	○									
日生研MPS不活化ワクチン	19											○									
インゲルバック マイコフレックス	19											○									
レスピシューア	20											○									
レスピシューアワン	20											○									
エムバック	20											○									
ボーシリス M Hyo IDAL	21											○									
日生研豚APM不活化ワクチン	32											○									
“京都微研,ピッグウイン-EA	27									○		○									
ボーシリスAPP+ERY RTU	28									○		○									
ボーシリスAPP-N	27											○									
日生研豚APワクチン125RX	29											○									
スワインテクトAPX-ME	30											○									
エコボークシガ	18												○								
ベビュード	19													○							
リターガードLT-C	31														○						
エンテリコリックス	31														○						
ボーシリスSTREPSUIS	18														○						
破傷風トキシイド「日生研」	19																○				
グレーサーバスター	23																			○	
日生研グレーサー病2価ワクチン	23																			○	
エンテリゾールイリアイティス FC	22																				○
エンテリゾールイリアイティス TF	22																				○
(2-3 ウイルス・細菌の混合ワクチン)																					
フォステラゴールドPCV MH	35										○										
インゲルバック フレックスコンボ ミックス	33										○										
ボーシリスPCV M Hyo	34										○										
インゲルバック 3フレックス	36										○										
フルシューアER	35									○	○										

動物用ワクチン等保管協議会

協議会幹事団体：公益社団法人日本動物用医薬品協会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-6-10 サトービル6階

TEL 03-5204-0440